

PACCON 2018 (タイ・ハジャイ) に参加して

愛知工業大学大学院工学研究科材料化学専攻 加藤 大貴

1. はじめに

2018年の2月7日から9日までタイのハジャイで開催された PACCON 2018 に、手嶋紀雄先生と、愛知工業大学工学部応用化学科生命・環境分析化学研究室の大学院生3名と共に参加しました。私にとって今回が初めての国際学会であり、これまで他のアジア圏の国に渡航した経験が無く、不安でいっぱいでした。しかしタイに着くと、以前に本研究室に留学していたタイ人の学生が迎えに来てくれていたばかりか、その後の学会のサポートもしてくださり、不安を感じるどころか楽しくタイで活動できました。

今回の国際学会を通して、英語を介してタイの方々とコミュニケーションをとったことで、自身の英語での発表技術の向上はもちろん、国際理解も深まり、非常に良い経験をさせていただきました。

2. 学会の様子

PACCON 2018 は世界各国から幅広い分野の化学の研究者が集まる学会です。私はそこで2日目に Determination of aldehydes and acetone using a pre-column derivatization HPLC coupled with



写真1 ポスター発表の様子

simultaneous injection effective mixing flow analysis system と題したポスター発表を行いました。ポスター発表は講演者が非常に多く、身動きが取りづらい中で発表を行いました。ポスター発表の出だしは、聴講者が私のポスターに興味を示さず、立ち止まっていただけませんでした。しかし、研究室に以前いた留学生やその知人が発表を聴きに来てくださり、徐々に聴講者の人数が増えました。外国人を前に英語で発表するという未だかつて無い緊張感から、セリフが飛んでしまったり、質問がうまく聞き取れず、返答できなかったりして自身の未熟さを感じました。しかし、身振り手振りを交えることでつたない英語力をカバーし、無事にポスター発表をやり遂げることができました。

初めての国際学会で意外に感じたのは、発表を行うだけでなくコーヒープレイクの時間をプログラムの間で多くはさみ、参加者の交流を深める時間が多く設けられていたことです。そのため終始リラックスして学会に臨むことができました。また夕食では学会の参加者一同が大ホールに集まり、タイの伝統舞踊を観ながら食事ができ、楽しむことができました。

3. タイ料理やタイ人学生との交流など

タイに渡航したのは2月の初旬です。日本では寒さが厳しい季節ですが、タイは常夏の国であり、入国時はまずその寒暖差に驚きました。空港の近くは^{ひとけ}人気がなく田舎といった感じでしたが、会場近くのホテル周辺には大型ショッ



写真2 学会ロビーにて



写真 3 Wat Hat Yai Nai にて

ピングモールもあり、活気にあふれていました。ホテルで初めて本場のタイ料理を食べましたが、スパイスの効いた独特の味付けやインディカ米の味が自分の口には合いませんでした。しかし、同じ研究室のメンバーはおいしいと言っていました。

2日目の夕方から3日目の昼頃までは、4か月間私たちの研究室に留学していたタイ人学生やその知人と交流しました。観光地を巡ったり、地元の商店でショッピングや食事を楽しんだ後、カラオケに行きました。カラオケは20人ほどが集まり、タイ人学生たちの盛り上がりには圧倒されながらも、楽しいひと時を過ごさせていただきました。3日目の昼頃にバスで空港まで帰る際に多くの方々が見送りに来てくださり、とても嬉しかったです。

4. 最後に

タイでの3日間は短い期間ではありましたが、非常に中身が濃く充実したものとなりました。初めて外国人に英語を介して発表したことで、自身の発表技術や英語力を見直す良いきっかけとなりました。また多くのタイ人と交流したことで国際理解を深める良い機会を得ることができました。

最後に、タイでお世話になったすべての人、一緒に学会に行った研究室のメンバー、指導教員の手嶋紀雄先生と村上博哉先生に深く感謝申し上げます。



写真 4 一緒に学会に行った手嶋紀雄先生（左端）と研究室のメンバー(右から2人目が筆者)